

# 大学生における友人関係の悩みが友人関係スタイルを介して友人の機能に与える影響

The influence of troubles with their friendship on the friend's Functions by friendship style in undergraduate students

川崎 雅子 (Masako Kawasaki)

指導：菅野 純

## 【問題と目的】

青年が抱く悩みは、学業や進路に関する悩み、友人関係に関する悩み、恋愛に関する悩みなど、多岐にわたる（小西・宮下、2003）。中でも、友人関係の悩みは青年期の中核となる悩みであり、その詳細を明らかにすることは、青年への臨床心理学的援助を行う上で重要であると考えられる。しかし、これまでに友人関係の悩みの内容を測定するための尺度は開発されていない。

また、一般的に悩みは、不適応の原因となるネガティブな側面を持つことが指摘されている（小田、2000）。その一方で、悩みのポジティブな側面に関する報告も多くなされていることから（例えば、山中、1988；水口、1989）、友人関係の悩みを持つことは、青年の友人関係にネガティブのみならずポジティブな影響を与えることが予測できる。しかし、これまでに青年期における友人関係の悩みが友人関係に与える影響について検討したものは少ない。

そこで研究1では、大学生における同性の友人関係の悩みの内容を多面的に測定できる尺度の作成を行う。さらに研究2では、友人関係の悩みが友人関係スタイルを介して友人の機能（自分にとって友人はどのような人であるかに関するとりえ方）に影響を与えるという仮説モデルの検討を行うことを目的とする。

## 研究1-1：友人関係の悩み尺度の作成と信頼性の検討

### 【方 法】

**調査対象** 首都圏の私立大学に在籍する大学生322名（男性142名、女性180名、平均年齢19.92±1.23歳）

**調査材料** ①フェイスシート：性別・学年・年齢、②「友人関係の悩み」原項目：予備調査で得られた65項目4件法

## 研究1-2：友人関係の悩み尺度の妥当性の検討

### 【方 法】

**調査対象** 首都圏の私立大学に在籍する大学生211名（男性83名、女性128名、平均年齢20.21±1.46歳）

**調査材料** ①フェイスシート：性別・学年・年齢、②友人関係の悩み尺度：研究1-1で作成した友人関係の悩み尺度3因子24項目4件法、③生きがい感スケール（近藤・鎌田、1998）：3因子25項目3件法、④SDS（福田・小林、1973）：

Self-rating Depression Scale（Zung、1965）の日本語版20項目4件法、⑤友人関係の悩み傾向についての質問項目：同性の友人関係について悩む傾向を問う1項目2件法

## 研究2：友人関係の悩みが友人関係スタイルを介して友人の機能に与える影響

### 【方 法】

**調査対象** 首都圏の私立大学に在籍する大学生267名（男性78名、女性189名、平均年齢20.10±1.23歳）

**調査材料** ①フェイスシート：性別・学年・年齢、②友人関係の悩み尺度：研究1-1で作成した友人関係の悩み尺度3因子24項目4件法、③友人関係スタイル：岡田（1999b）の友人関係尺度3因子15項目6件法、④友人の機能：伊藤・岡部（2003）の重要な他者機能チェックリスト4因子21項目5件法

## 【結果と考察】

本研究の結果より、大学生における友人関係の悩みの内容として、「希薄な関係に対する悩み」、「友人からの評価に対する悩み」、「友人の配慮欠如に対する悩み」の3つのカテゴリが見出された。

また、友人関係の悩みは、大学生の精神的健康に悪影響を及ぼす可能性があるというネガティブな側面が見出された一方で、「希薄な関係に対する悩み」や「友人からの評価に対する悩み」を持つ場合、「気遣い」スタイルがとられやすく、結果として「精神的安定」や「モデル」の獲得が促されるというポジティブな側面も示された。さらに、これらの悩みを持つことで、「精神的安定」や「対立による成長」につながる「内面的関係」スタイルがとられにくくなるという結果が見出された。このことから、大学生が友人と内面的な関わりができるようなサポートの重要性が示唆された。

今後は、学校段階や性別によって、友人関係の悩みが友人関係に与える影響が異なるかを検討する必要がある。また、神経症や問題行動につながる友人関係の悩みと、大学生一般に広く見られる友人関係の悩みの関連を探ることにより、友人関係の悩みのメカニズムへの理解が深まるとともに、大学生が精神的健康を保つための介入方法を検討する上での、重要な視点が得られると考えられる。